

消 防 予 第 266 号
令 和 7 年 6 月 25 日

各都道府県消防防災主管部長
東京消防庁・各指定都市消防長 殿

消 防 庁 予 防 課 長
(公 印 省 略)

都道府県及び市区町村の庁舎に係る防火安全対策の徹底等について

去る令和7年5月6日夜に埼玉県白岡市庁舎において火災が発生し、焼損被害により、当該庁舎が使用できなくなるなどの事態が生じました。本火災の出火原因については、管轄消防本部において現在調査中ですが、電気系統のショートの可能性が高いと考えられているところです。

貴職におかれましては、下記の事項に留意の上、都道府県及び市区町村の庁舎に係る防火安全対策の徹底等を図られますようお願いいたします。

また、各都道府県消防防災主管部長にあつては、貴都道府県庁舎管理部局並びに管内市町村(消防防災部局を通じて庁舎管理部局)に対してその旨周知するようお願いいたします。

なお、本通知は、消防組織法(昭和22年法律第226号)第37条の規定に基づく助言として発出するものであることを申し添えます。

記

1 平時における出火防止対策

庁舎における火災の発生を防止するため、防火管理者を中心として、火気の管理や熱を発生する設備・機器の保守点検など出火防止対策を徹底すること。特に、近年、業務用及び個人用の電子機器やリチウムイオン蓄電池の使用が増えているところであり、以下の点等に留意して電気火災対策を講じることが重要であること。

- (1) 電源コード等の劣化・損傷の有無の定期的な点検を実施すること。
- (2) 電源プラグ及びその差込口(コンセント・テーブルタップ)の周辺に埃が溜まらないよう定期的に清掃すること。
- (3) 電源コードやコンセント・テーブルタップの容量の上限を超えないように電子機器等を使用すること。
- (4) リチウムイオン蓄電池を搭載した機器について、メーカー指定の充電器の使用、落下などの衝撃防止、異常発熱などがみられた場合の使用停止等に留意すること。

2 火災発生時における初動対応

火災が発生した場合に迅速・的確に初動対応することができるよう、休日や夜間を含め応急体制を確保するとともに、職員等に対して必要な教育・訓練を実施すること。特に、庁舎の焼損被害を防止・低減する観点においては、以下の点等に留意して実践的な訓練を行うことが重要であること。

- (1) 庁舎における消火器や屋内消火栓設備等の設置位置を実際に確認するとともに、これらを用いて初期消火の具体的な要領を確認すること。また、防火戸や防火シャッターについても、設置位置の確認や、作動状況の確認を行うこと。
- (2) 消防機関へ通報する際の窓口や連絡経路を確認するとともに、消防機関とのやりとりを模擬した通報訓練を実施すること。
- (3) 休日や夜間を想定した初期消火、通報等の訓練を実施すること。

3 その他

- (1) 関係者への周知や訓練指導等に当たり、別紙1及び別紙2のリーフレットを適宜活用されたいこと。
- (2) 本火災後の庁舎内部の状況について、白岡市のホームページに動画が掲載されているので、必要に応じ参照されたいこと。

https://www.city.shiraoka.lg.jp/emergency_news/kifu/8651.html



消防庁予防課 企画調整・制度・防災管理係
奥田違反処理対策官、辻係長、安田総務事務官、
中西総務事務官
電話：03-5253-7523



消防庁の
ホームページにて
動画で解説!

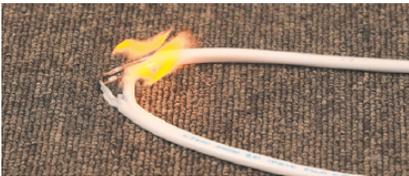
電気器具類が原因となる火災は年々増加しています。現代社会では多種多様な電化製品が作り出され、電気器具類の火災のリスクは、常に存在しています。私たちの生活の身近には、常に火災のリスクが潜んでいることを忘れずに、適切な使用・維持管理に努めていきましょう。

プラグ・コード類

多くの電化製品に共通する、**プラグ・コード類でも多くの火災が発生**しています。

▶▶ 折れ曲がりによる発火

コードを強く折り曲げ使用していると、内部の配線が部分的に断線し、その部分が発熱し発火する場合があります。



▶▶ 差し込み不足により発火

プラグが完全に差し込まれていない状態で使用していると、電気抵抗が増してしまい、プラグが加熱されます。この状態が続くと急に発火する場合があります。



▶▶ トラッキングによる発火

プラグを長期間差し込んだままにしておくと、ほこりや湿気により、火花放電を繰り返し、やがて火災に至る場合があります。(トラッキング火災)



▶▶ 踏みつけにより発火

コードを踏みつけている場合にも、折り曲げと同じように、踏まれている部分が発熱し、発火する場合があります。



▶▶ たこ足配線により発火

延長コード・タップにたこ足配線をする、タップの定格電流を上回る電流が流れ込み発熱し、この状態が続くことで発火する場合があります。



▶▶ 束ねていたことにより発火

コードを束ねたり、巻き付けた状態で使用していると、束ねている部分に熱がこもり、発火する場合があります。



火災予防対策と まとめ

プラグ、プラグの差し込み口には、ホコリなどのゴミがたまっていないか確認しましょう。日頃から配線の状態、差し込み状況を確認し、タップは**定格電流を超えないよう管理**しましょう。経年劣化により緩くなった受け口、ぐらつく差し刃なども、発火する可能性があるため、**抜き差し**をして確認しましょう。プラグ・コード類は、家具などの物陰にあることが多く、日頃から気にすることは少ないと思います。**点検**を行い、**異常を見つけ、火災を防ぎ**ましょう。

充電式電池・リチウム電池

近年火災原因として増加が著しいのが、モバイルバッテリーのように**繰り返し使える充電式電池**です。

▶▶ 水に落としたことによる発火

洗面所などで水に水没させた場合、内側に水が浸み込み、異常が生じ、通電時に内部でショートして発火する場合があります。



▶▶ 落下による発火

落下などにより、大きな衝撃が加わると、変形や電池内部の損傷により、発火することがあります。



▶▶ 低温下で充電したために発火

低温下での電池の充電は、電池に損傷を与える恐れがあり、発火に至る可能性があります。



火災予防対策と まとめ

充電式電池は、説明書をしっかり確認し使用方法を守るとともに、**電池をぶつけたり、濡らすなどしてしまった時は、電池に異常がないかしっかり確認し、電池が膨らむなど少しでも異常があれば、使用をやめ**ましょう。充電式電池は近年使用が増え、それに伴い火災件数も増えています。原因は様々で、使用方法の不備や改造、製品の不良などがあります。**PSEマークが表示されているかなどを確認**し、一定の安全が確保されているものを使用し、**火災を起こさない**ようにしましょう。



大事な3つの初動対応

●火災発生時には、以下の行動を実施しましょう。

消火

- 火災発生場所を確認後、**消火器**を使用し、**初期消火**を行いましょ。う。
- 消火器で消火できない場合は、**屋内消火栓設備**を使用しましょ。う。

通報

- **119番通報**をしましょ。う。
 - ※ 職場の住所を伝えましょ。う。
 - ※ 火元、けが人などの情報も伝えましょ。う。

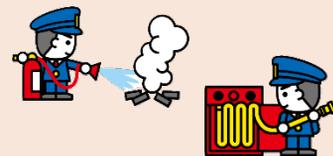
避難誘導

- 火元の**部屋**の**ドア**や**防火扉**を閉めましょ。う。
- **放送**などで建物内に**火災の発生**を知らせ、**避難誘導**をしましょ。う。
- 在館者がいる場合は、**火元から遠い避難口**へ**誘導**しましょ。う。

※ 自動火災報知設備のベルが鳴ったら、受信機で現場を確認し、火災の有無を確認しましょ。う。

教育・訓練の実施

- 🔔 **消火器**や**屋内消火栓設備**の**位置**や**使い方**は分かりますか？
- 🔔 **119番通報**の**手順**は分かりますか？
- 🔔 **避難経路**と**誘導方法**は分かりますか？



火災発生時の初動対応の備え、職員に対する**防火教育**や**自衛消防活動の担当者に対する訓練**を定期的に行いましょ。う。
特に、**夜間・休日**を想定した**少人数での対応**などさまざまなシチュエーションを想定した実践的な訓練をしましょ。う。

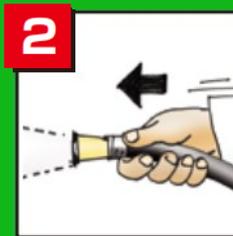
消火器の使用方法

●いざという時のために、**消火器の操作手順**を確認しましょ。う。

消火器の操作手順



1 黄色いピンを上引き抜く
※運搬中にピンを引き抜くことは避けましょ。う。



2 ノズルを火元に向ける。



3 レバーをにぎるとノズルから消火剤が放出されましょ。う。



注意

火災発生時、すぐに**初期消火**できるよう、**消火器の使用方法**を確認しましょ。う。炎が**天井**に達している場合は、**初期消火**をあきらめて、**直ちに避難**してくだされ。う。



【消火器の取扱い説明動画】



屋内消火栓の使用方法

- **消火器で消えないときは屋内消火栓設備**を使用します。
2人で操作するものと1人で操作できるものがあります。
設置されている屋内消火栓設備の**種類**を確認し、**操作手順**を確かめましょう。

- **2人の操作が必要な屋内消火栓設備**
(1号消火栓)

①消火栓ポンプ起動

起動ボタンを押し、消火栓ポンプを**起動**します。



※上記は発信機とポンプ起動ボタン兼用の場合です。
種類によって異なりますので、
事前に起動ボタンの位置を確認しましょう。

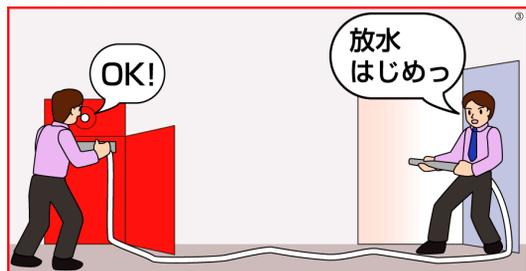
②ホース延長

ホースにねじれがないように確認しながら**延長**し、
出火箇所に向かいます。



③バルブ開放・放水

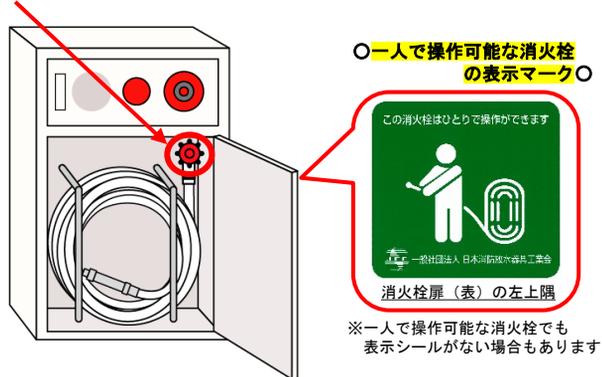
出火箇所に接近した操作員の放水準備ができたなら
「放水はじめっ」の合図で、消火栓の**バルブ**を開放
し放水します。



- **1人の操作が必要な屋内消火栓設備**
(易操作性1号消火栓・2号消火栓・広範囲型2号消火栓)

①バルブ開放

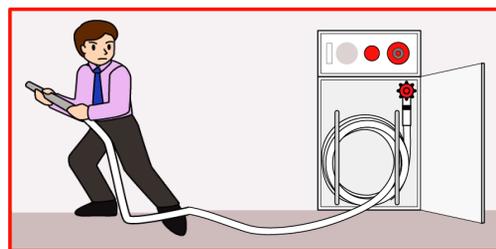
バルブを開放すると消火栓ポンプが**起動**します。



※一人で操作可能な消火栓でも
表示シールがない場合もあります。

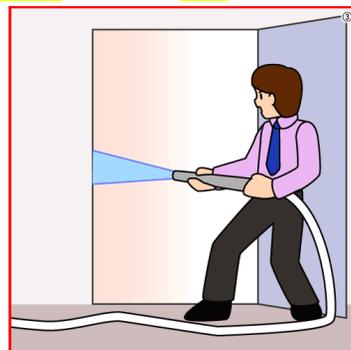
②ホース延長

ホースを持ちながら、出火箇所に向かいます。



③放水

ホースノズルのコックを開き放水します。



※1人で操作が可能な屋内消火栓は、
種類によって使用方法が異なりますので、**事前に確認**しましょう。